

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21 年 2 月 1 日
事業所名	せんねん村グループホーム矢曾根せんりょう
事業所番号	2373200472
記入者名	職名 管理者 氏名 蜂谷 佐知子
連絡先電話番号	0563-64-0075

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の今年度の目標から、事業所として「地域で暮らしやすい環境づくり」を目標の1つとし、利用者と積極的に地域に出かける機会をつくっている。 ・運営推進会議では、今年度の目標を年度始めに説明し、利用者が地域の中での暮らす支援を、地域ぐるみで作り上げていくことを主題としている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・法人の理念、年度目標から部署目標を管理者が作成、そこから半期毎に個人面接を行い、個人目標と一緒に作成し目標達成できるようサポートしている。 ・毎月の職員会議で目標を確認し、利用者の視点で話し合う時間を毎回作っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・毎回の運営推進会議でグループホームの社会的役割をできるだけわかりやすく、具体的に説明するように心がけている。 ・毎月のホーム便りにも理念を掲載するようにした。	・年度毎に町内会長が変更されるので、年度の引継ぎの際に町内会で説明できる機会をつくっていききたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・毎日の散歩や買物時に積極的に挨拶することで、地域の方から気軽に声を掛けてもらえ、顔見知りの方も増えてきている。 ・近隣の方から野菜を頂くと、こちらからも手作りおやつなどを持参するなど交流することも昨年より増えている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会の掃除やお祭りなどの行事に、利用者と共に参加し、町内親睦会には職員が参加している。 ・回覧板や地域の方からの情報をもとに、町内での活動にはできるだけ参加している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>・包括支援センターと連携して、地域での勉強会や介護教室、相談会などを開催していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>・毎月の職員会議で外部評価の意見を参考に、テーマや項目を決めて具体的に話し合っていくたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>・待機者の中には制度を利用している方のいるため、これから職員に制度について学ぶ機会をつくっていききたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員交代時には利用者や家族へ必ず説明をし、引継ぎを行なっている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人にて新人、中途、中堅、リーダー等段階に応じて研修を開催している。その他法人外での研修にも積極的に参加できるよう促している。 ・、職員がやりがいを持って仕事ができるように、職員の力量や半期毎の個人目標から研修受講やキャリアアップの応援をしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同じ系列の法人間で勉強会を実施している。 ・管理者は愛知県のグループホーム協会の役員であり、地域のネットワークをいかして外部研修や交流会などを企画運営し、積極的に職員が参加できるようにしている。		・今年度より近隣市町村のグループホーム管理者のネットワークが立ち上がり、職員間の交流や相互研修などができるよう来年度の向けて計画中有る。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・昨年度まで職員が業務から離れほっとできるような場所がなかったため、フロアから離れた場所にソファや机、パソコンなどを用意し休憩できるスペースを確保した。 ・希望の休みが取れるよう、勤務調整している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・法人の年度目標から部署目標を管理者が作成、そこから半期毎に個人面接を行い、個人目標を一緒に作成。1人ひとりが目標達成できるようサポートしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の相談やインテーク時に現状の不安や思いを本人や家族から把握し、本人との関係づくりを目指している。 ・空室があれば、体験入所することもできるようにしている。 	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談時に、ホームの見学とサービスの説明をできるだけわかりやすく説明し、実際の利用者の生活を見て頂きながら不安なことが言いやすいような雰囲気をつくるようにしている。 	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期相談時に現在の状況を確認し、必要なサービスにつなげられるように支援している。 ・緊急時には他事業所に相談しながら、対応している。 	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の見学や、空室発生時に希望があれば、お試し利用として宿泊体験をすることもある。 ・入居している利用者がホーム内を案内したり、話しかけてもらうよう、他利用者に助けてもらっている。 	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の先輩として、料理や伝統行事、知恵などを教えてもらえる関係作りをしている。 ・職員自身が悩みを相談し、アドバイスをもらうこともある。 ・職員が出勤する時は「お帰り」、退勤する時は「行ってらっしゃい」と利用者が声を掛けてくれる。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や問題点だけでなく、些細な情報も共有できるよう努力している。 ・3ヶ月毎のサービス担当者会議では家族と共に本人を支えているチームであることを理解して頂いており、一緒に本人を支える関係が出来ている。 		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのお誘いやグループホーム便りのコメントを、本人に書いてもらったり、手紙のやり取りをしている。 ・事故や体調不良などの報告だけでなく、良い出来事や表情などを言葉や写真などで伝えるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本人と家族の思いや状況が結びつくことができるように、気軽に行事やイベントなどに参加できるよう働きかけていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・行きつけの場所や友人との関係を保てるように、遊びに行く機会を作っている。 ・利用者・家族の情報をもとに人生史を写真やコメントなどを集めてファイル(ライフレビューブック)にし、なじみの店や故郷にいけるようにしている。 		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同志が部屋に呼びに行く、出来ないことを助け合うなどの機会をつくるようにしている。 		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・亡くなった利用者の仏前訪問をしたり、高齢の家族の様子を時々訪問することもある。 ・退居された方の家族が差し入れを持って顔を出してくれることもあった。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の生活の中で本人にさりげなく聞くようにし、思いや意向を実現できるように努めている。 ・ 3ヶ月毎のサービス担当者会議では本人や家族に思いや意向を確認し、ケアプランに記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人のありのまま声やサインから思いや希望を見出し、暮らしが豊かになるような支援をしていきたい
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の生活歴やなじみの暮らしなどなどの情報を写真やコメントなどで「ライフレビューブック」としてファイルし、活用している。 	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ その日によって自由に過ごせるように柔軟に対応するようにしている。 ・ ケアプランにて起床～就寝までの流れが記入してあるが、本人がどう過ごすのか、どう過ごしたいのかまで反映できていない面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の声やサインから、本人が過ごしたい暮らし方をケアプランに反映していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3ヶ月毎のサービス担当者会議は家族の都合に合わせた日程で行ない、本人や家族の思いを反映したプランを作成している。 ・ 担当だけのケアプランにならないよう、毎月の職員会議で毎月の重点ケアとして話し合い、全員で確認をしている。 	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3ヶ月を目安に見直しを行なっているが、体調が著しく変化したときや看取り時には期間に関係なく随時見直しをしている。 ・ 事故やヒヤリハットの分析から、必要に応じて家族と共にケアプランを見直している。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者の姿や言葉に対して、職員はどう行動したか、利用者の反応はどうだったかと「事実」「支援内容」「結果」をセットにして介護記録に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・事業所としてできること、できないことを家族とともに話し合い、地域の資源をいかして馴染みの人や生きがいサービスなどを利用した方もいた。 ・かかりつけ医へ通うことが困難になってきた方には協力医の往診へ切り替えるなど、そのときの状況に応じて柔軟に対応してきている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の歌や踊り、大正琴など利用者が好むボランティア団体と話し合いの機会を設け、意向に合う活動ができるよう協力を得ている。 ・民生委員と共に、地域の親睦会に参加した方もいる。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・毎月地域の手芸教室に通い、廃品での作品作りを楽しんでいる方が数名いる ・本人の状態や家族の要望に応じ、他のサービス利用をお試して利用した方もいる。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議で地域や家族からの情報を、包括支援センターや行政へ発信し、地域での支援活動を啓発している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人のなじみのかかりつけ医にできるだけ家族と共に通院できるようにしている。本人の状態や家族の都合でかかりつけ医から協力医療機関の往診へと変更も可能であり、本人・家族と共に話し合っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・管理者は認知症専門医と相談できる関係があり、認知症専門医がいる病院に通院している方もいる。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・週2日看護師が配属されており、日常の健康管理に対して職員や衣料関係やと連携が取れている。 ・母体法人だけでなく、姉妹法人の看護師とも気軽に相談ができています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・家族と共に医療機関の相談員又は医師と話す機会を必ず設け、早期の退院に向けた支援に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・今年度の看取りはなかったが、これまでの4件の看取りから指針を作成し、本人・家族、職員、医療関係者にて話し合いを行なうようにしている。 ・終末期のケアプランを状態の変化と共に見直している。		・看取りを経験していないスタッフに対して、終末期のあり方について話し合うことで、不安なく仕事ができるようにしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・看取りを終えたときには必ずスタッフで振り返りを行い、課題や不安など問題を、次にどういかしていくか、スタッフ、医療関係者のとともにチームとして検討している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族に同意を得た上で、情報を書面や電話にて暮らしぶりを伝達している。 ・新しい住まいに訪問し、本人の様子を見てこれまでの支援方法が活かさないか話すこともあった。 	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さりげない排泄介助、利用者の前での情報交換はしないように心がけている。 ・個人情報保護に関する指針を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入社時に「ケアの心得」として一人ひとりの個性を大切に、言葉かけや対応などを教えているが、定期的に初心に帰る機会をつくっていきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手を出しすぎないようできること、できないことを把握し、一歩下がって待つ支援を心がけている。 ・ひとり1人の力に依りて理解できる声かけをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できそうなことをできることに変えていけるようなきっかけや場面作りを多くしていきたい。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の流れの中にメリハリをつくるため掃除や体操など日課のようなものは大まかにはあるが、強制はしていない。 ・余暇活動は個別に希望を聞いて行なっている。 	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なじみの美容院に行く方、出張床屋を利用する方、職員により散髪する方それぞれ希望を聞いている。 ・化粧をする方、マニキュアをする方など、それぞれの身だしなみを楽しんでいる。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼、夜の献立を利用者と共に毎日決めて買物に行っている。 ・食事の準備、調理、盛り付けは利用者が力を発揮できるように共に行なっている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・毎日晚酌する方、イベント時に飲酒する方など、本人の希望に合わせている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・トイレへの案内が必要な方は、本人のサインや排泄パターンなどからさりげなくトイレにいけるような声掛けを行なっている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者同士で毎日の入浴の順番を決めており、昼食後～就寝前まで、希望に応じて入浴している。 ・入浴剤や音楽など本人が楽しめるような工夫をしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・昼寝が習慣となっている方、夜間寝れなかった分昼寝をする方など、休息を個人の状況に応じて支援している。 ・夜間眠れない場合は一緒にTVを見る、お茶を飲む、話をするなどして本人が休みたいときに休めるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の生活歴やできること、できそうなことを活用し、力の発揮や生活の会話の中から利用者の希望や楽しみを引きだすようにしている。 ・動物好きな方のために、ペットショップへ行くことも多い。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人管理をしている方、職員が管理している方などそれぞれの力に応じた支援をしている。 ・個人での買い物時の支払いには、本人が支払いをする機会を作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・個人や仲の良い友人同士で自由に外出される方がいる。 ・外出の機会の少ない方には、戸外への興味や外出する目的をつくり支援している。		・外出される方が偏ることがないように、一人一人が外出を楽しみにされるように取り組みたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・誕生日やお盆、正月などは個別で希望の外出先に出かけている。 ・広告やTVなどの情報から「行ってみたいなあ」と呟いたことをのがさず、歌舞伎の鑑賞を計画し、総長からチケット売り場に一緒に並び、歌舞伎鑑賞を実現したこともある。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は自由に使用できるようになっている。季節の手紙以外にも、普段から手紙のやり取りで交友関係を継続できるようにしている。 ・毎月のホーム便りに本人直筆でコメントを記入してもらっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・食堂や居間、居室など本人や来客が好きな場所で過ごしていただいている。 ・本人自らお茶を入れていただくことで、気兼ねなく過ごせることもある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・対象となる利用者はいないが、10月に勉強会を実施し、理解を深めた。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や居間など日中施錠することなく、自由に外出できるようになっている。 ・居室は本人管理で鍵を持っている方もおり、自分の意思で鍵を自由にかけられるようにしている。 		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出傾向にある利用者がある時には、声をかけあって所在を確認するようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの支援が重なり、共有空間にスタッフが不在になってしまう時もあり、スタッフ同士の所在確認を怠らないようにしていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人の能力に合わせて管理が必要かどうか判断している。 		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応について勉強会を定期的開催している。 ・万が一事故があった場合には再発防止のために原因分析を行ない、ケアプランに反映している。 		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・採用後、救急救命講習を受講しており、その後はがホーム内で勉強会を定期的実施している。 ・緊急時の手順がすぐに分かるようにマニュアルを作成している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族も参加できるように、ホーム内で救命救急の講習会を実施できるよう、消防署の救急隊員と企画中である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月職員による消防点検、定期的な避難訓練を実施。夜間を想定した避難訓練では、隣接施設の職員と協力し行なっている。 ・運営推進会議では、毎回災害対策について報告しており、毎年町内の消防訓練に職員が参加している。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・面会時やサービス担当者会議の際に家族と話し合いをし、ヒヤリハットやこれまでの事故分析からケアプランに反映している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎朝、熱や血圧などを測定し、今日の体調を本人の言動から観察している。 ・いつもの様子と違う時にはスタッフ同士連携し、異常の早期発見、今後の予測を行い対応するようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診後、処方箋で目的や用量を家族と確認して管理をしている。 ・服薬時には誤薬事故がないように名前や用量などを確認できるよう、薬のケースに識別しやすいように工夫している。		・服薬の支援と症状の変化について一覧でわかるようなファイル等を作成していきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・栄養バランスを考え、根菜類や海藻、乳製品などを献立に取り入れている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・これまでの習慣により一人一人に合わせた時間で口腔ケアを行なっている。 ・口腔の異常があれば、歯科衛生士に相談し助言や歯科検診が受けられるように支援している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者と献立を作る際に目安になるよう栄養バランスをチェックしやすい献立表を工夫をしている。 ・定期的に母体法人の管理栄養士に献立のチェックしてもらい、アドバイスをうけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> 法人内に感染対策委員会が設置しており、マニュアルが配備されている。 定期的に手洗いの基本や消毒など対応の取り決めをチェックしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 流行する直前に取り決めを確認しているが、日頃からの意識を高めるようにしていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 賞味期限を確認し、安全な食材使用に努めている。生ものを扱う際には衛生面に特に気を配っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 予防のため取り決めを見直したが、管理を優先してしまうと生活の場としては厳重になりすぎてしまうこともある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 玄関の掃除、整理整頓、季節感を感じるような模様替えを行なっている。 建物周囲は定期的に利用者と草取りや花壇の整備を行なっている。 		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の声やTVの音など、大きすぎる音がないように配慮しているが、利用者同志の会話が他利用者には大きく聞こえる方もあり、混乱することもある 窓からの採光は利用者自身がロールスクリーンの使用方法を理解されており、調整していることが多い。 		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 食堂とリビングは死角を利用して分かれており、ソファでのおんびり昼寝をしたりおしゃべりをするなど思い思いに過ごされている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具を持って来ていただけるように、入所時に家族へ説明しており、本人と共に居心地の良い空間を作っている。 ・本人が好きな写真や絵画を飾るなど、本人と一緒に居室の空間を居心地よくできるように話し合っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・廊下やトイレは共有空間と比べて寒くなりがちである。 ・居室はエアコンで乾燥しがちであるため、加湿器や濡れタオルなどで予防している。		・冬季のトイレや廊下が寒く、暖房を検討していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	・利用者自身が自由に使えるような掲示や収納を工夫している。 ・必要な部分のみ手すりを取り付けてあり、出来るだけ身体機能をいかした動きができるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の入り口には本人が書いた表札を、本人の目線に合わせて掲示している。 ・分かりやすい目印やシールなどで工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダには気軽に出やすいように、プランターや洗濯物干し台など利用者の使いやすい高さに合わせている。 ・季節ごとに楽しめるように花壇や畑などの花や野菜などを一緒に手入れしている。		・建物の外回りは砂利のスペースが多く、利用者が自由に外出する際には危険であり改善したいが、予算の都合や計画など法人との話し合いが必要である。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・大通りから少し道を入った田園の中に私達のグループホームがあります。木材をふんだんに使用したホームの室内・室外には、昔ながらの長屋を感じさせられる面影があり、近隣の家・蔵とも馴染んだ造りになっています。
- ・運営推進会議では会を重ねるごとに、気軽に意見交換できるようになり、参加者の皆さまから貴重な意見を頂いています。この意見をもとにサービスの改善、地域との関わりに重点を置き取り組み、成果が目に見えてわかるようになってきました。
- ・職員は、利用者が築いてきたなじみの暮らしを継続する為に、日々のケアに取り組んでいます。また、昨年度の外部評価の結果から年間の目標を作成し、毎月の職員会議にて改善に取り組んできました。
- ・「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら」せんねん村で過ごした日々が一番良かったよ・・・そう想って頂けるサービスをこれからも目指していきます。